

◎景気ウォッチャー調査[2023年7月]

2023年7月の中国地域調査結果の概況

■景気の現状に対する評価

現在の景気を3か月前と比較するとその評価は次のとおりであった。

景気の現状判断D I (合計)は、前月を0.3ポイント上回る52.7となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「旅行者が目立つようになり、消費が活発になっている。」(百貨店)、「暑い日が続いているため、エアコンなど季節商材の売上が増加している。」(家電量販店)等の理由から、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を0.4ポイント上回る51.5となった。

企業動向関連は、「悪くなっている」の回答の割合が減少し、「データセンターの見学会の回数が以前と比べて大幅に増加している。見積りの頻度も増え、客のニーズが高まっている。また、ICT関連のソリューションの引き合いも増加している。」(通信業)、「前月と比べ、来客数は約5%、成約件数は約10%増加しており、前年と比べても来客数や成約件数は約5%増加している。」(不動産業)等の理由から、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を2.9ポイント上回る56.6となった。

雇用関連は、「良くなっている」、「やや良くなっている」の回答の割合が減少し、「新規求人数は前年と比べ6.1%減少、有効求人数も前年と比べ0.5%減少している。産業別では、ほとんどの産業で新規求人数が前年比マイナスに転じている。」(職業安定所)等の理由から、「やや悪くなっている」の回答の割合が増加したため、前月を5.9ポイント下回る52.9となった。

	7月	6月	前月差
合計	52.7	52.4	0.3
家計動向関連	51.5	51.1	0.4
企業動向関連	56.6	53.7	2.9
雇用関連 (参考値)	52.9	58.8	-5.9

■景気の先行きに対する評価

現在より3か月先の景気の先行きに対する評価は次のとおりであった。

景気の先行き判断D I (合計)は、前月を1.6ポイント上回る54.9となった。

分野別にみると、家計動向関連は、「やや悪くなる」の回答の割合が減少し、「新型コロナウイルス感染症の影響は時間とともに薄れ、来客数は伸びてくる。団体予約の問合せも増加傾向にあり、今後に期待が持てる。」(一般レストラン)、「夏休み、お盆休みで8月の売上は良くなる。9~10月も秋のトップシーズンのため、来客数の増加に期待が持てる。」(観光型ホテル)等の理由から、「やや良くなる」の回答の割合が増加したため、前月を2.6ポイント上回る55.6となった。

企業動向関連は、「やや良くなる」の回答の割合が減少し、「先行発注の動きが鈍化していることで、全体的に下振れの見通しである。」(電気機械器具製造業)等の理由から、「やや悪くなる」の回答の割合が増加したため、前月を0.7ポイント下回る53.7となった。

雇用関連は、前月と同ポイントの52.9となった。

	7月	6月	前月差
合計	54.9	53.3	1.6
家計動向関連	55.6	53.0	2.6
企業動向関連	53.7	54.4	-0.7
雇用関連 (参考値)	52.9	52.9	0.0